

生島足島神社(上田市)

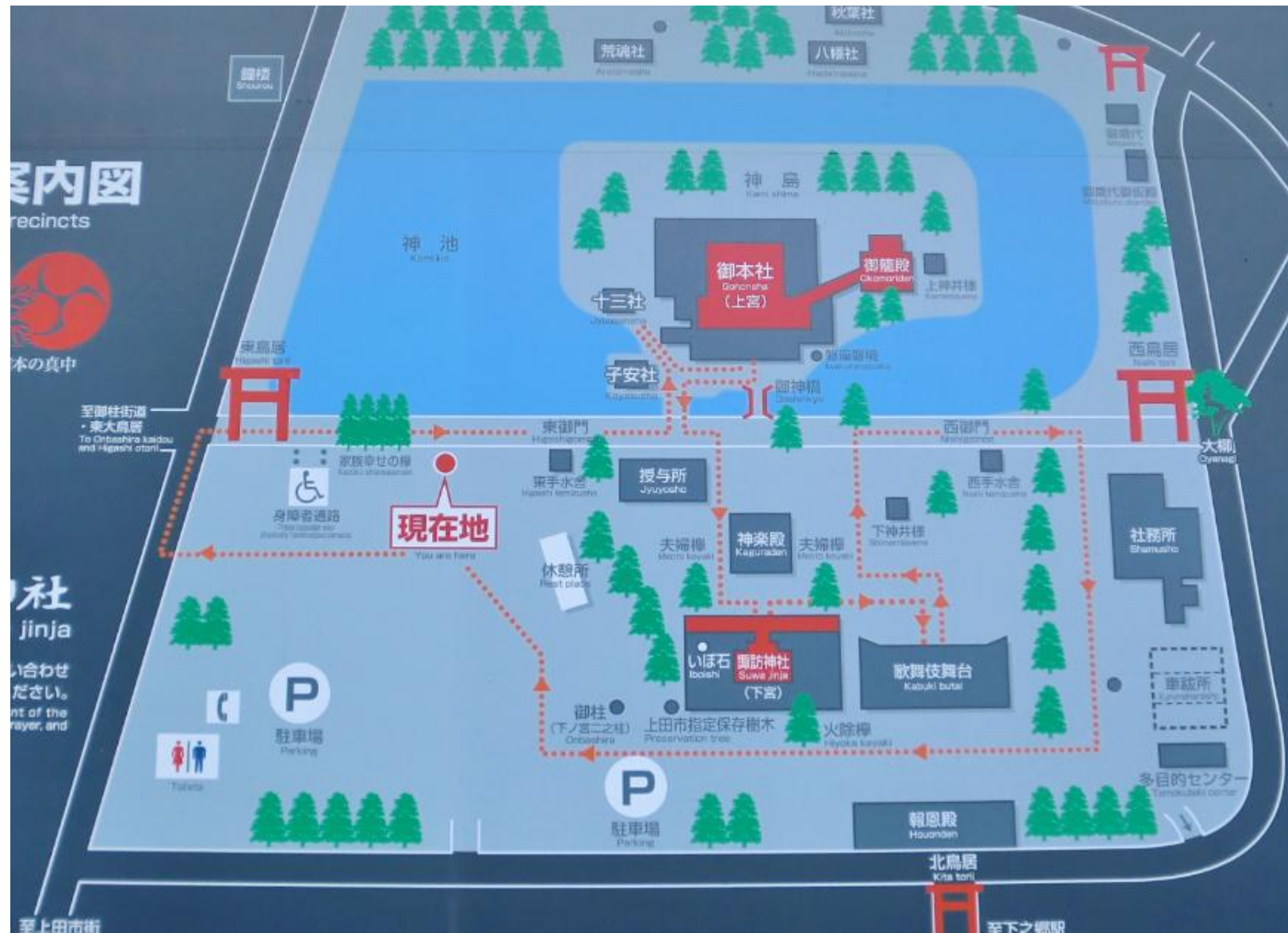
いくしまたるしまじんじゃ

東入口鳥居



前方は東御門





東御門



正面、池の向こうに社殿がある/この様に池をめぐらせて神域とされる島をつくる様子は「池心の宮園池(いけこころのみやえんち)」と称され、出雲式園地の面影を残すもので、日本でも最古の形式の一つとされるものという



東手水舎



右手は授与所/前方は西御門



振り返って見る/正面は東御門



この橋を渡ると社殿がある





社殿



本殿の御扉の奥には御室と呼ばれる内殿があり、内殿には床板がなく大地そのものが御神体(御霊代)として祀られている/つまり御神体は本殿奥深くの二間四方の大地そのものという







現在の社殿は昭和15年に国費をもって竣工したもので、内殿は平成10年9月「県宝」に指定された



振り返って見る



社殿前の神橋



神橋



神楽殿





前方は摂社諏訪社



後方は本殿に正対するように建てられた長野県宝の摂社諏訪社本殿/手前の門も県宝





長野県生島足島神社摂社諏訪社本殿及び門
上田市大字下之郷字中池田七〇一番地



摂社諏訪社本殿の屋根



本殿は1610年建立という/門も同時期という

長野県宝生島足島神社摂社諏訪社本殿及び門

長野県文化財保護条例第四条の規定により左記のとおり指定します。

記

一、種別建造物

一、所在地 上田市大字下之郷字中池西七〇一

一、指定年月日 平成十四年三月二十八日

この本殿は、棟札から慶長十五(一六〇)年に上田藩主真田信之の寄進により再建されたことがあきらかになっている。また、棟札には本殿の部材を一本からすべて作つたこと、大工棟梁が宮坂勘四郎であったことなども記されている。

本殿の全体の形式は正面の柱間が一・八メートルの規模の一間社流造で、屋根は銅板葺(元ヶけら葺)である。社殿の軸部は全体に彩色を施している。現在の塗装は昭和十六年の塗り替えによるものであるが、当初からのような塗装(朱漆塗、胡粉塗など)がなされていたと考えられる。

この本殿は、全体の建ちが高く、軽快な感じのする点が特徴である。向拝の頭貫上部にある臺股(表側に竜、背面に雲を彫る)、扉の上方にある臺股(雲・麒麟)に立体的で精巧な彫刻が施されている点、脇障子の上部に闘結の透し彫りを入れている点など、この時代に中央で盛んになった桃山様式を表現している。なお本殿手前がある門も本殿と同時期の建築と考えられる。門は、当初は内部に床を張つた諏訪系の神社にみられる「御門屋」の形式をとっていたことが痕跡から確認でき、この形式の門としては県内唯一番出で。

本殿・門ともに県内の桃山様式を伝える貴重な建築である。

保存上の注意

○指定建造物の周囲では喫煙、たき火を禁ずる。

○許可なく現状を変更することを禁ずる。

平成十四年九月十二日

上田市教育委員会

御神木の櫨



夫婦櫛とある



中を覗いてみる



ここは秘宝館か



長野県宝である歌舞伎舞台の建物/内部は起請文の展示場となっている



1868年の建立であるが、江戸期農村歌舞伎舞台の典型的な姿をほぼ完全に伝えているという

県宝 生島足島神社歌舞伎舞台

種別 建造物
所在地 上田市大字下之郷中池西七〇一
所有者 生島足島神社
指定年月日 昭和六十一年八月二十五日

本舞台は、間口九間(十六三六メートル)奥行約七間(十二三七メートル)その規模は本県内の江戸(明治時代に建築された農村歌舞伎舞台)のなかで最大のもの、全国的にみてもトップクラスに属する。

正面右と左の中二階に「太夫座」および「下座」を設け、内部のほぼ中央に半径二、四メートルの「廻り舞台」がつくられている。またその前方二カ所に「せり上り」がある。

後方の壁面には巾二間(三六メートル)の窓があるがこれは背後の自然風景を舞台背景として利用するためのものである。観客席は舞台前方の平地で花道は舞台向って左手に仮設した。氏子の伝承によれば、本舞台は明治元年(一八六八)に建設されその後校舎、集会所等に利用されてきたが、最近その建築が江戸期農村歌舞伎舞台の典型的な姿をほぼ完全に伝えていることが検証され、長野県県宝に指定された。

昭和六十一年十二月二十日

長野県教育委員会
上田市教育委員会



歌舞伎舞台の建物の側面





長野県宝 生島足島神社本殿内殿

長野県文化財保護条例第四条の規定により左記のとおり指定します。

記

一、種別 建造物

一、名称 生島足島神社本殿内殿

一、所在地 上田市大字下之郷字中池西七〇二番地

一、指定年月日 平成十年十月二十六日

（生島足島神社）

生島足島神社の歴史は非常に古く、平安時代に制定された延喜式に「生嶋足嶋神社二座名神大社」として記載されています。戦国時代には武田氏や真田氏が信仰を寄せ、江戸時代には歴代上田藩主の厚い庇護を受けてきた由緒ある神社です。

神社境内には、池に囲まれた小島の上に、権現造の本社（昭和十六年）が北面して建ち、それに正対するように摂社諏訪社本殿（上田市指定文化財）が建てられています。本殿内殿は、かつては屋外に建てられていましたが、十八世紀後期から十九世紀初期の時期に覆屋としての本殿が建てられ、屋内の内殿となりました。

現在の内殿の規模は、桁行（正面）（柱間三間）4.823、梁行（側面）（柱間二間）3.103で、屋根は切妻造の厚板張り、当初は柿葺です。内部は、向かって左側二間が内陣、右側一間が外陣となっています。外陣は、諏訪大神が半年間、生島・足島両神にご飯を炊いて奉つたとのこと伝えられ、その伝承を受け継ぐ御籠祭と呼ばれる神事が現在も行われています。内陣の周囲は大部分が板壁で内外陣境に片引き板戸の潜り戸があります。正面中央柱間には片引き戸の戸口がありますが、当初は窓であったと推定されます。また、西妻（右側面）は、現在は壁も戸もない開放状態ですが、当初は向拝が存在したと推定されます。床は、内陣・外陣とも土間となっており、内陣の土間が本神社の御神体とされています。これは、万物を育む大地を神として崇める最も古い神社の形式を伝えるものです。

主要な部材は檜材で、表面は手斧仕上げの上を丁寧に削り磨いています。外面した部材の一部には朱などで彩色した跡が残ります。軸部は、粽・礎盤・大瓶束等を用いた室町時代の様式で、その特徴から建築年代は、天文年間（一五二一～一五五五）頃と推定されます。

保存上の注意

- 指定建造物の周囲では喫煙、たき火等を禁ずる。
- 許可なく現状変更するものを禁ずる。

平成十一年二月

長野県教育委員会
上田市教育委員会

風林火山

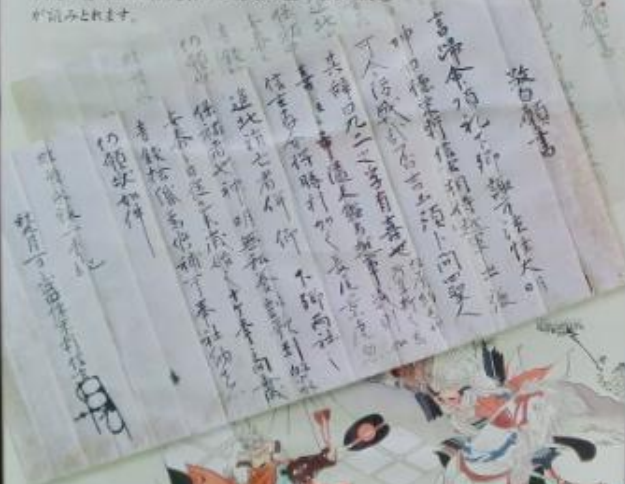


境内・授与所にて発売中！
「起請文にみる信玄武將」2,500円

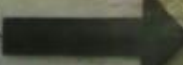
武田信玄願文 (国重要文化財)

生島足島神社
展示公開中
(無料)
境内・歌舞伎舞台

この願文は、武田信玄自筆(永禄2年9月1日奉納)のもの。永禄4年(1561)9月10日、上杉謙信との有名な「川中島一丈谷戦」はこの2年後であり、647の生島神社に祈りを捧げた信玄の甚くならぬ決意が読みとれます。



起請文展示場



西御門



西の鳥居





西御門



お友達になりたいな



すぐにお別れ



神池越しに社殿を見る



神池



東鳥居に戻る



こんな石造物がある



御神木か



御柱





御柱

長さ 五丈五尺五寸(約15.5メートル)

切出し場所 東山市有林

樹種 赤松樹令約150年

幹回り 二メートル

直径 約三ト

当神社の御柱祭は神代の昔、健甕名方富命(諏訪明神)が諏訪へ下降の途次、生島足島の二神に御奉仕されたのがはじまり、以来七年目毎(六年に一度)の寅・申(三月)に行われ、この大祭には特に宮中より幣帛料が下賜され、御柱は近畿十ヶ所の若青等により奉曳され、氏子の手によって奉建される。

生島足島神社

参考ホームページ

<http://www.ikushimatarushima.jp/>

<http://ogino.ninpou.jp/shioda/ikusimatarusima/index.htm>

<http://nagatabi.hariko.com/ueda/namaasi/10syasin.html>

http://www.genbu.net/data/sinano/ikusima_title.htm



安曾神社と鎌倉道(上田市)

さて、付近を通った際に見かけた伝鎌倉道



田園空間博物館

鎌倉道

【かまくらみち】

由 来

当田平の鎌倉道の源流は、当田北条氏の居館があった東麓山の小字「竹之内」(「直内」地籍から、南東方向、ほぼ一直線に丸子との境界の砂原村に通じているのが、当田平の鎌倉道と推定されています。その距離、約5kmの道程があります。

鎌倉道は、この当田北条氏の館を起点として、初陣村、丸子(佐久を経て、種休村を経て、関東平野を通り葛粉のあった鎌倉に通じる道が鎌倉道です。長富神社の森は、北条朝から北条氏村からもよく見え、双方からの目印として大事にされました。

「いざ鎌倉」という緊急時に、まっしぐらに駆けつけて、鎌倉朝に忠告を言われた道です。平時は政治的な伝達、物資の輸送、人々の往来、文化の交流など幅広く活用されました。

現在、当田町には国家重要文化財をはじめとして、貴重な文化財が数多くあります。当時の中央であり、文化の盛んだ鎌倉からこの鎌倉道を通して運ばれた文化が、当田平において見事な花を咲かせたのです。



↑ パノラマ展望台
2100m

鎌倉道

【かまくらみち】

由来

塩田平の鎌倉道の道筋は、塩田北条氏の館跡があった東前山の小字「竹之内」
「道場」地籍から、南東方向、ほぼ一直線に丸子との境界の砂原峠に通じているの
が、塩田平の鎌倉道と推定されています。その間、約5kmの道程があります。

鎌倉道は、この塩田北条氏の館を起点として、砂原峠、丸子・佐久を経て、碓氷峠を
越え、関東平野を通り幕府のあった鎌倉に通じる道が鎌倉道です。安曾神社の森は、
北条館からも砂原峠からもよく見え、双方からの目印として大事にされました。

「いざ鎌倉」という緊急時に、まっしぐらに駆けつけて、鎌倉殿に忠勤を励む時の
道です。平時は政治的な伝達、物資の輸送、人々の往来、文化の交流など幅広く活用
されました。

現在、塩田平には国宝・重要文化財をはじめとして、貴重な文化財が数多くあります。
当時の中央であり、文化の進んだ鎌倉からこの鎌倉道を通して運ばれた文化が、
塩田平において見事な花を咲かせたのです。

鎌倉道の跡



鎌倉道に沿う阿曾神社





隨身門/1824年建立



隨身姿の二神の像





正面は本殿/1714年再建



本殿



安曾神社

石上布留社

祭神 布留御魂剣

郷土を鎮め護る神として奈良県大和市布留町に鎮座する石上神宮より勧請された社とされます。

安曾神社の地主神で、石神の地名の語源と考えられます。

安曾神社

旧郷社、鈴子、石神、柳沢、旧三ヶ村の産土神

本殿

祭神 大己貴命（大國主命）

建南方命（諏訪大社上社の祭神）

八坂刀売命（諏訪大社下社の祭神）

創建年代は不詳。社伝によると貞観年代（八六〇年頃）に国々の諸神及び仏像経巻を収め、後に信濃権守岑嗣が阿曾山舎社として再建する、寿永年代（一一八五）に源頼朝が諸国の神社を修理させたので当地の地頭芳沢民部介光綱は、石上布留社の境内に阿曾社を建立して遷座した。観応二年（一二三二）に兵乱が東国より此の地におよび、芳沢城が落ち芳沢氏と阿曾社の事蹟は失われてしまったと伝えられている。棟札によれば本殿は正徳四年（一七二四）に再建されている。

子安社

祭神 木花咲耶姫命

天孫瓊瓊杵尊の妃で、父は大山御祇命である。

安産と育児の神として祀られている。

蚕影社

祭神 天照大神

養蚕の神として祀られた。

男石社

祭神 伊弉諾尊

天照大神の父神で、国産の神である。

立派な強い男児が授かることを祈願して祀られた。

神明社 祭神 保食神（伊勢神宮外宮の祭神）

農業、産業の神として祀られている。

棟持柱は伊勢神宮独得の造りである。

千木と勝男木が失われている。

祭神 菅原道真

学問の上達を願って天神さまが祀られている。

笠石の左右に梅鉢紋が彫られている。

隨身門 文政七年（一八一四）造立

神社を守るために隨身姿の二神の像を左右に安置する門。

左右の二神は閻神（かどもりのかみ）と看督神（かどのおさ）で俗に矢大神と左大神ともいわれている。

二神の裏側には神馬の像がおかれている。

この門は入母屋の楼閣造りで二重の扇極木が美しい。

二層目には廻廊をめぐらし勾欄がつけられている。

等身大の隨身像と楼閣造りの隨身門は近隣では見られない堂々たるものである。

お約束の再利用材置き場

